

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：12501

研究種目：新学術領域研究（研究領域提案型）

研究期間：2016～2020

課題番号：16H06546

研究課題名（和文）グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立

研究課題名（英文）Establishing a New Paradigm of Social/ Human Sciences based on Relational Studies: in order to Overcome Contemporary Global Crises

研究代表者

酒井 啓子（Sakai, Keiko）

千葉大学・大学院社会科学研究院・教授

研究者番号：40401442

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 45,800,000円

研究成果の概要（和文）：新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立」を統括する総括班は、領域内の計画研究や横断研究プロジェクトで実施された事例研究の成果をとりまとめるために、全体研究会や国際会議、若手研究者報告会を毎年主催、領域全体の最終成果としては「グローバル関係学」叢書シリーズ（岩波書店）全七巻を2020-21年に刊行した。同シリーズは、2022年地域研究コンソーシアム研究企画賞を受賞した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

総括班は、領域全体として「グローバル関係学」を構築し、そこでは、主体中心主義に傾斜した既存の社会科学を見直し、関係中心主義的視座に立つ、「主語のない世界」における「みえない関係」をいかに可視化、分析俎上に乗せるかに、方法論的努力を傾注する、複数のディシプリンを横断した、より上位のレベルにおける人文・社会科学全体を想定した視座として、「関係学」を位置付ける、という新たな視座を提示、IRや地域研究の新展開に影響を与えた。

研究成果の概要（英文）：The research management Unit was supposed to work to encourage the activities of each study group, providing facilities and opportunities such as academic meetings, international workshops, and joint academic conferences outside of Japan to widen their academic networks and scopes. It also coordinated the relationship among the study groups to promote their cooperation and organize trans-group study projects, such as migration and theory building. It took a leading role in publishing 7 volumes of the Relational Studies on Global Crises series from Iwanami Shoten, which won the JCAS award for Academic Planning in 2022.

研究分野：地域研究、国際関係論

キーワード：地域研究 国際関係論 グローバル・イシュー トランスナショナル

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本領域研究に取り組もうと考えた当初の背景には、21世紀に入り頻発しているさまざまな問題がある。たとえば、緊急に取り組むべきイシューとして、多くの死者と難民を出しているシリア内戦やリビア、ソマリア、イエメンなどで続く紛争状況、さらには難民とホスト国社会との衝突や、中東、アフリカ、アジア諸国において宗教や民族、部族など社会的出自を巡る対立、マイノリティ差別が暴力的な衝突を伴って蔓延している、という問題がある。欧米先進国においても、アメリカでの黒人差別問題や西欧での移民排斥運動など、従来国際社会が積み上げてきた人道主義という規範や多文化共生社会の理念が崩れつつある。本領域研究立ち上げの際には発生していなかったが、2020年以降の新型コロナ・ウィルス感染症の世界中での蔓延もまた、グローバル社会を襲う世界大の現代的危機にほかならない。

そこでは、国家や地理的に規定された従来の地域を超えて共通・連動する諸問題の新奇性、現代性を踏まえ、そのローカル・レベルからグローバル・レベルまでのさまざまな規模、レベルの主体間の関係が、情報や思想、モノやカネ、人の移動のグローバル化などによって常に変動し、相互に影響しあうことに焦点を絞った、社会科学・地域研究を軸とした分野横断的かつ実践的研究の新たなパラダイムを生み出すことが求められている。こうした現代の国際社会が抱える喫緊の問題に取り組むために、地域社会の独自性を踏まえつつ、それがグローバルな関係性のなかにあって変容する過程を分析する、総合的視点をもった学問が必要と考え、それを「グローバル関係学」として学理を確立し、それを各事例の実証と連関させた研究群（「グローバル関係学」という研究領域）を形成することを目指した。

## 2. 研究の目的

「グローバル関係学」の視座を確立することによって、国家や地域社会、伝統的共同体、越境的ネットワーク、国家間同盟・統合体、グローバルな広域圏など、さまざまな規模とレベルの主体の複雑な関係性のありようとその変容を、社会科学と地域研究の融合はむろんのこと、関連する諸人文科学、自然科学の手法を分野横断的に駆使して分析し、それにより現代国際社会が直面するさまざまな危機的事態の解決の方策を探ることが可能となる、そのような関係性を中心とした新たな学問分野を、問題解決型の応用科学として確立することを目的とした。

特に、計画研究、公募研究を統括する総括班の目的は、領域研究全体の運営、調整である。そのため共同研究体制を構築し研究ハブとしての役割を果たすため、「グローバル関係融合研究センター」を千葉大学に設置、以下を目的として事業を進めた。

(1) 難民問題や国家破綻などの「グローバルな危機」を掘り起こし、各計画研究に問題意識を喚起する。各計画研究は、提示されたテーマを共有して各事例研究を通じて実証するとともに、全体研究会や国際ワークショップで計画研究横断的な議論を展開する。また、国内外で研究会を開催し、関連分野の学会で研究報告を行うことで、「グローバル関係学」に関する学際的討議の場を設ける。特に、海外の国際学会やワークショップを通じてその成果を発信、海外の研究者の関心を喚起し、国際共同研究の広がりを目指す。

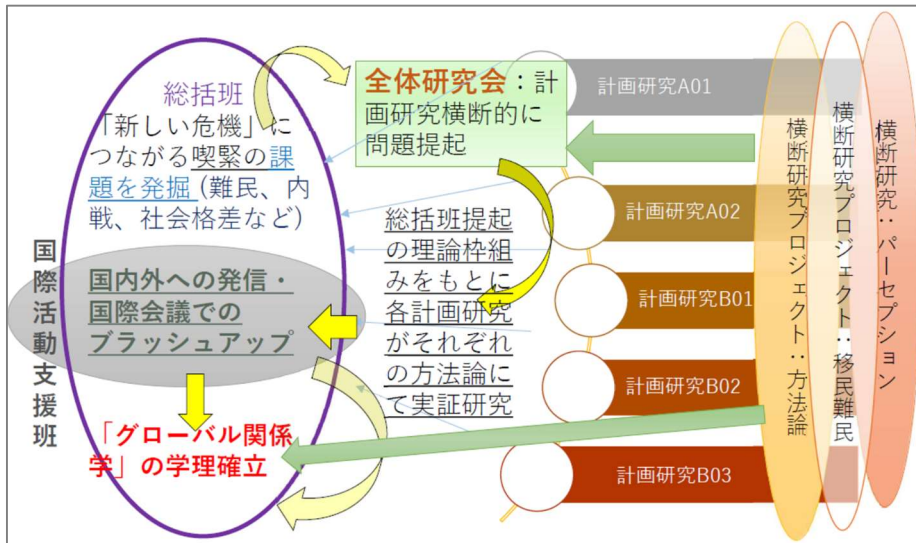
(2) 若手研究者の積極的な研究を発掘、推奨するために若手育成委員会を設置、若手研究者報告会を企画し、領域外の若手研究者に参加を促す。また中核となる大学では、本分野にふさわしい若手研究員を、若手研究者の育成もかねて特任研究員として雇用する。

(3) 広報委員会を設置、ホームページを開発・運営して各研究者の活動内容や研究成果を公開する。特に研究成果発表のために日本語および英語でのオンラインワーキングペーパーを発行する。また期間内に新学術領域全体の研究を取りまとめ、岩波書店から「グローバル関係学」叢書シリーズの出版を企画・実行する。

(4) 上記の国際ワークショップ、若手研究者報告会を含め、各計画研究が毎年度数回実施する研究会や国際ワークショップの一部を公開し、広く知見を国内外の社会に発信する。

### 3. 研究の方法

以上の目的のため、本領域ではさまざまな研究方法が並存した計画研究を組織し、人文社会科学における個別の学問的方法論を超えて、諸学問の有機的結合を図った。そのため、研究体制としての全体構想として、まず制度化された関係性と、開放性の高い関係性とに分けて研究項目を設定した。**研究項目A**は、国家や国家間関係のなかに制度化された関係性を扱い、近現代における国際社会の中心主体とされる国家を分析対象とし、そこで構築される諸制度を固定化された



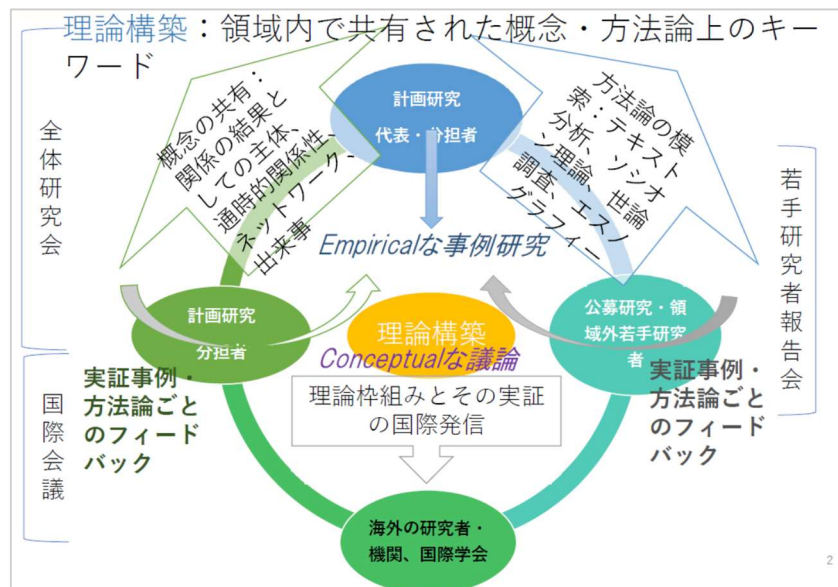
関係性としてとらえて、そのメカニズムを解明する計画研究A01と、国際社会のなかで制度化された関係性によって結びついた国家間同盟関係や地域統合体などを扱う計画研究A02をおいた。一方**研究項目B**は、個人や共同体間の関係性から始まり、

文明圏まで広がる広域ネットワークまでの、制度化されない融通無碍な関係性の伸縮を扱った。そして、個人や狭い範囲の地域社会における関係性を中心とした計画研究B01、国境を越えて広がるトランスナショナルなネットワークを研究対象とした計画研究B02、グローバルな生態環境や技術、思想、交易の広がりや扱う計画研究B03という、3つの計画研究を設定した。さらに、2017～18年度、2019～20年度に公募研究を募集し、そこでは上記計画研究のそれぞれの対象とする分野において、扱われていない地域や事象に関する研究（東アジア、ラテンアメリカ）を採択するとともに、計画研究にとらわれない学理確立に資する横断的研究を**研究項目C**（C3：グローバルな人の移動、技術伝播、思想の伝播が関係の変動・連関・定着に与える影響、C04：関係性分析の新たな認識枠組みや分析視座の提示、あるいは理論、分析手法構築の試み）として採択した。

一方で、計画研究に設定されたレベルを超えた**3つの計画研究横断的プロジェクト**（「移民・難民・多文化共生をめぐる関係学構築プロジェクト」「グローバル危機における他者認識・パーセプション研究プロジェクト」「『グローバル関係学』確立のための新たな方法論探究プロジェクト」）を設定し、総括班主導で、研究分野や対象を超えた横断的な視座、枠組みを提示した。

さらに、これらの計画研究や横断研究プロジェクトで行われる empirical な事例研究の成果を

統括するために、分担者、公募研究者が全員参加する全体研究会を期間中に計7回実施した他、そこで提示された理論枠組みを国際的に提起して検証するために、国際活動支援班主導での海外開催の国際会議を、期間中全3回実施した。領域内で重視したのは、この、計画研究による事例研究と、総括班(および公募研究者を含めた方法論



プロジェクト)が展開する conceptual な議論の相互作用の活性化である。理論構築に専念する総括班が「グローバル関係学」の概念、方法論を構築し、それにまつわるキーワードを領域内全体で共有、それを土台としてそれぞれの事例研究を推進するという、仮説と事例のフィードバック体制を整えた。

そのフィードバックは、領域内の研究者にとどまらず、領域外の関連する研究分野の若手研究者をも対象に行われた。本領域研究では若手研究者の育成に力点を置き、最終年度を除き年一回若手研究者報告会を開催、領域外の研究報告に対して領域内研究者が「グローバル関係学」の視座から討論を行った。

#### 4. 研究成果

領域全体で得られた研究の成果としては、各計画研究、公募研究独自の成果に加えて、その枠を超えて共同研究として得られた成果がある。

##### [研究領域内共同研究成果]

本領域では、総括班、国際活動支援班が主導して、「グローバル関係学」の学理確立、研究対象とするイシューを研究項目横断的に設定した横断研究の実施、各計画研究・公募研究間の意見交換と成果報告の場としての全体研究会、国際会議の開催を実施し、成果を上げてきた。主なものは以下の通りである。

##### (1) 岩波研究叢書『グローバル関係学』シリーズ(全7巻)の刊行

領域全体での最大の成果は、成果報告書を岩波書店からシリーズで出版する計画を2019年春から準備し、第1巻を「グローバル関係学」の学理研究とした他、各計画研究が原則として一巻ずつ担当して全7巻を出版(2020年9月~2021年2月)したことである。そのうち第1巻(計画研究横断事業「新たな方法論探求」)、第5巻(計画研究B01および横断事業「他者認識・パーセプション研究」)、第6巻(計画研究B03および横断事業「移民・難民・多文化共生」)は領域内共同・横断的研究の成果である。刊行にあたっては、以下のような学問的提起を行った。

21世紀に入り、ISなど武装勢力の突発的な出現、国家破綻と内戦の頻発、路上抗議行動の連鎖など、世界で動乱が多発している。(中略)その原因や背景の多くについて、主に欧米の国家主体を分析対象としてきた従来の学問分野は、十分に解明できていない。なぜなら、既存の学問分野が「主語」のある、主体の明確な出来事しか分析対象とせず、伝統的、古典的な主体中心主義の視座を取っているために、今起きている現象とますます乖離してきているからである。それに対して、本叢書が提唱する「グローバル関係学」は、主体よりもその間で交錯するさまざまな「関係性」を分析することに重きを置く。関係性が双方向、複方向的に交錯し連鎖するなかで出来事が起きると考え、関係性の網のなかにこそ、澱や瘤のように「主体」が浮き彫りになると考える。「グローバル関係学」とは、狭い範囲の地域共同体から超領域的グローバルなネットワークまで、非欧米世界を含めた世界を総体として把握する視座を確立し、主体中心的視座で「見えなかった/見なかった」ものを、関係中心的視座から「見える」ようにすることを目的とする新しい学問である。」(岩波書店「グローバル関係学」シリーズ「刊行にあたって」より)

このように、シリーズの刊行によって「グローバル関係学」の学理の確立とそれに基づく実証分析が、一定の成果を上げることができた。

##### (2) シンガポール、セルビア、タイでの国際会議開催と国際発信

本領域では「グローバルな危機」に直面している海外の地域の研究者、知識人との研究交流を重視し、「危機」分析における文脈性を強調している。そのため、研究期間中に①シンガポール国立大学中東研究所と共催で「移民・難民・多文化共生」国際会議(2018年1月5~6日)、②セルビア共和国社会科学研究所との共催で「グローバルな紛争に関する関係学」(同12月21~22日)、③マヒドン大学インターナショナルカレッジとの共催で「資源と移動」国際会議(2019年12月1~2日)を実施した。これらの国際会議では(a)さまざまな地域の専門家、実務家が結集することで、多くの事例比較が可能となった、(b)実際に紛争と密接に関与した専門家の意見や経験を議論のなかに反映させることができた、(c)研究報告を英語でフィリピンをベースにした国際ジャーナル *Asian and Pacific Migration Journal* 第28巻第4号およびタイ・マヒドン大学の

ジャーナル *Journal of Population and Social Studies* の 28 号(2020)Special Issue に掲載した、ことが成果である。

(3) 活動拠点としての「グローバル関係融合研究センター」(千葉大学) 設立

同センターは千葉大学唯一の人文社会科学の全学研究センターとして2017年4月に設置され、領域設置期間後も「グローバル関係学」を継続・発展させる研究拠点として機能している。同センターを窓口としてメコン機構(バンコク)、ムスタンシリア大学(バグダード)と千葉大学が交流協定を結び、海外の研究機関との協力体制を確立したことも国際的研究ネットワーク拡充の成果である。

法論を構築し、それにまつわるキーワードを領域内全体で共有、それを土台としてそれぞれの事例研究を推進するという、仮説と事例のフィードバック体制を整えた。

そのフィードバックは、領域内の研究者にとどまらず、領域外の関連する研究分野の若手研究者をも対象に行われた。本領域研究では若手研究者の育成に力点を置き、最終年度を除き年一回若手研究者報告会を開催、領域外の研究報告に対して領域内研究者が「グローバル関係学」の視座から討論を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計34件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 12件）

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 929
2. 論文標題 イラク「十月革命」が目指す未来：女性・若者が切り拓く非暴力運動のゆくえ（特集 街頭から再構築する民主主義）	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界	6. 最初と最後の頁 146-153
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 61(10)
2. 論文標題 政治学と地域研究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 みすず	6. 最初と最後の頁 6-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 (1146)
2. 論文標題 思想の言葉 世界は「一九八九」を賞賛する。それが中東を貶める（1989）	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 2-5
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 61(7)
2. 論文標題 父子鷹	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 みすず	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 61(4)
2. 論文標題 アラブがハリウッドのヒーローを演じるということ、雑感	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 みすず	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 535号
2. 論文標題 イランにおけるメディアと政治 国家による情報統制と政治勢力による道具化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 44-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuki Tashiro, Sami Wong and Hikari Ishido	4. 巻 第16巻第1号
2. 論文標題 Text Mining Analysis of President Trump;s Twitter: A Nexus with Societal Wellbeing	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公共研究	6. 最初と最後の頁 111-126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hikari Ishido	4. 巻 第16巻第1号
2. 論文標題 Human Happiness, Sola Fide and the Divine Kingdom: A Perspective from Biblical Theology (Special issue 3/ Well-being in politics, economy, and culture: multi-layered and multi-dimensional theory and empirical analysis)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 公共研究	6. 最初と最後の頁 127-141
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S18814859-16-1-P	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 浦田秀次郎、石戸光	4. 巻 63(3)
2. 論文標題 山澤逸平教授とAPECの発展	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 世界経済評論	6. 最初と最後の頁 58-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Ochiai, Takehiko	4. 巻 52
2. 論文標題 Harold Arundel Moody and the League of Coloured Peoples	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ryukoku Law Review	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 5
2. 論文標題 ISのインパクトをはかる イラク主要3紙の量的テキスト分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 6
2. 論文標題 送り出し国で難民危機はいかに報道されたのか アラビア語主要紙の量的テキスト分析から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 高垣美智子、他	4. 巻 12(2)
2. 論文標題 シンポジウム：アジア農村の持続性・・・都市と地方の共存共栄は可能か	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 熱帯農業研究	6. 最初と最後の頁 103-113
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 1月
2. 論文標題 「グローバル関係学」試論：「グローバルな危機」分析のための「関係学」を模索する	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 910
2. 論文標題 レバノン総選挙：「ヒズブッラー躍進」の意味(世界の潮)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 25-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 533
2. 論文標題 レバノン第19期国民議会選挙とヒズブッラーの躍進	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 68-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 2
2. 論文標題 「重層的文脈重視型『グローバル関係学』の視座 その確立のための予備的議論」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 671
2. 論文標題 「トランプ政権とイラン核合意の行方 米国単独離脱とその影響」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 5-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hikari Ishido, Yuki Tashiro and Richard Liang	4. 巻 6
2. 論文標題 “Political and Economic Integration in Crisis: A Theoretical Viewpoint”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 新学術領域「グローバル関係学」オンライン・ペーパー・シリーズ	6. 最初と最後の頁 1-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 尹相国・田代佑妃・石戸光	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 「開発経済に関する一つのフレームワーク - 「新構造経済学」の視点より」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 千葉大学人文公共学研究論集	6. 最初と最後の頁 233-245
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 189号
2. 論文標題 「戦後のイラクで何が対立しているか：関係性の結果としての宗派（地域研究と国際政治の間）」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『国際政治』	6. 最初と最後の頁 17-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 59(11)
2. 論文標題 カタルーニャとスコットランドとクルドの、見果てぬ夢の夢	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『みすず』	6. 最初と最後の頁 4-13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 No.2
2. 論文標題 Relational Studies on Global Crises: beyond International Relations and Area Studies	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 CRSGC-Chiba-Essay/Conference Paper	6. 最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 石戸光	4. 巻 14
2. 論文標題 コミュニティーレベルの幸福度に関するコメント	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 公共研究	6. 最初と最後の頁 121-124
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Y. Okuyama, A. Maruyama, M. Takagaki, M. Kikuchi	4. 巻 118
2. 論文標題 Technical efficiency and production potential of selected cereal crops in Senegal	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Agriculture and Rural Development in the Tropics and Subtropics	6. 最初と最後の頁 187-197
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kota Suechika	4. 巻 Vol. 12, No. 1
2. 論文標題 "Strategies, Dynamics and Outcomes of Hezbollah's Military Intervention in the Syrian Conflict,"	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Asian Journal of Middle Eastern and Islamic Studies	6. 最初と最後の頁 89-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 896号
2. 論文標題 「引き裂かれる国家　ISはイラクに何をもたらしたのか」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『世界』	6. 最初と最後の頁 159-167
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 巻 32(1・2)
2. 論文標題 東アジアにおける人権規範の「地域適合化」と市民社会	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 千葉大学法学論集	6. 最初と最後の頁 49-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S09127208-32-1-P49	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 41
2. 論文標題 「シリア後」に本格化する中東の覇権争い (特集 2017年 世界のゆくえ 日本の針路)	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 92-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 948
2. 論文標題 イランの核合意・制裁解除 その意義、背景と余波	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 歴史学研究	6. 最初と最後の頁 17-21, 54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 256
2. 論文標題 「イラク 錯綜する政治・軍事対立と描き得ぬ未来」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 『アジア研ワールドトレンド』	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 石戸光	4. 巻 1
2. 論文標題 国境を越えたサービス取引の実態を追う	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 世界経済評論	6. 最初と最後の頁 96-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石戸光	4. 巻 13
2. 論文標題 コミュニティーレベルの関係性：ポジティブ心理学と経済学の視点から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 公共研究	6. 最初と最後の頁 97-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 巻 46
2. 論文標題 東アジアの平和の再創造	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 平和研究	6. 最初と最後の頁 i-xx
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 16件)

1. 発表者名 Yasuyuki Matsunaga and Umot Azak
2. 発表標題 "The State Regulations of Minority Religions in Comparative Perspective"
3. 学会等名 International Society for the Sociology of Religion (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 Transformation of "Source of the Fame" in the Eyes of Political Blocs in the Post-2003 Elections in Iraq
3. 学会等名 Middle East Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 「『埋め込まれた関係性』概念を導入した紛争と国際政治分析の提案」
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 「平和と音」をめぐる理論・思想・実践 討論
3. 学会等名 日本平和学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 落合雄彦
2. 発表標題 「クレシヤード」の110年 英領シエラレオネ植民地のアサイラム小史
3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 宗派主義の政治的意味をはかる イラク主要紙の量的計量分析
3. 学会等名 日本中東学会第35回年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kinoshita, Hiroko and Dai Yamao
2. 発表標題 A Quantitative Text Analysis on Mobilization of the Electorate by Islamist Parties during the 2018 Iraqi Parliamentary Election
3. 学会等名 International Conference on Global Risk, Security and Ethnicity, IPSA Research Committee 44 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 Searching for Relational Studies on Global Crises in order to Establish a New Paradigm of Social/Human Science for Overcoming Contemporary Global Crises
3. 学会等名 The IPSA 25th World Congress of Political Science- Brisbane (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 Searching for Relational Studies on Global Crises in order to Establish a New Paradigm of Social/Human Science for Overcoming Contemporary Global Crises
3. 学会等名 The Fourth World Social Science Forum (WSSF) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 Searching for Relational Studies on Global Crises in order to Establish a New Paradigm of Social/Human Science for Overcoming Contemporary Global Crises
3. 学会等名 Tsukuba Global Science Week (TGSW) (国際学会)
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 Understanding the transformation of power balance in the Middle East: from Sunni/Shiites dichotomy to the competition for post-IS regional predominance
3. 学会等名 Asian Federation of Middle East Studies Association, 2018 Conference Beijing (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA
2. 発表標題 “Competitive Statehood in Syria under Conflict: A Poll Survey Analysis,” PA-185 “Conflict States in Conjunction: Analyzing ‘Intertwined Politics’ among Syria, Iraq and Jordan,”
3. 学会等名 The Fifth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA
2. 発表標題 “Diffusion and Convergence of Statehood in Syria under Conflict: A Poll Survey Analysis,”
3. 学会等名 The IPSA 25th World Congress of Political Science (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kota SUECHIKA
2. 発表標題 “Re-configuration of a ‘State’ in Syria under Conflict: A Poll Survey Data Analysis,”
3. 学会等名 The Fourth World Social Science Forum (WSSF) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 Relational Studies on Global Crises: beyond International Relations and Area Studies
3. 学会等名 CIRAS センター共同研究ワークショップ「アジア太平洋時代の地域研究と CIRAS センター」(2018年2月17日(土)、稲盛財団記念館 大会議室)(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 Al-Sadr City : Sectarianism, Class struggle or Tribal identity?
3. 学会等名 Iraqi Citizen and Reconstruction, by Mustansiriya university, Baghdad, Iraq (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 ポストIS世代の中東とアメリカの対中東政策
3. 学会等名 広島平和セミナー2017 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 M.TAKAGAKI, T.YAMAGUCHI, L. NA
2. 発表標題 Educating your Labor Force in CEA
3. 学会等名 ICCEA 2017 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 M.TAKAGAKI, T.YAMAGUCHI, L. NA
2. 発表標題 Education and Training on Protected Horticulture in Chiba University, Japan
3. 学会等名 沿海州・日本農業ビジネスフォーラム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 すべてのバンドラの箱を開けた9.11
3. 学会等名 日本中東学会講演会「9・11から15年 中東の混迷と『イスラム国』」（招待講演）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 地域研究者は戦争にどう向き合うか
3. 学会等名 日本学術会議
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Matsunaga, Yasuyuki
2. 発表標題 Religion, Violence, and the Politics of Sanctified Punishment: A Case of Iran 's Islamic State
3. 学会等名 American Sociological Association (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山尾大
2. 発表標題 「イスラーム世界とグローバル・ガバナンス」
3. 学会等名 グローバル・ガバナンス学会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 “ The Rise of the Pan-Shiites Militia Network: Hizballah ’ s Military Intervention in the Syrian Conflict(s) ”
3. 学会等名 BRISMES Annual Conference 2016 ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hikari Ishido
2. 発表標題 A Sustainable, Innovative and Inclusive APEC Community
3. 学会等名 Asia Pacific Economic Cooperation ( 国際学会 )
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 Khin Nyunt and Chiba University Research Group (Representative: Hikari Ishido)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Keigado	5. 総ページ数 175
3. 書名 Myanmar ’ s Difficulty With the Western Gate: What the “ Rohingya ” issue poses	

1. 著者名 Yongkyu Chang, Eun Kyung Kim, Wakiko Ohira, Takehiko Ochiai, Akua Opokua Britwum, Regina Hoi Yee Fu, Kazuyo Ideue and Bosakaibo Bomino Georges	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Dahae	5. 総ページ数 295
3. 書名 African Politics and Economics in A Globalized World	

1. 著者名 葛谷 彩、芝崎 厚土	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 228
3. 書名 「国際政治学」は終わったのか	

1. 著者名 キンニユン著・千葉大学研究グループ(代表:石戸光)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 恵雅堂出版	5. 総ページ数 192
3. 書名 『西門の難題:ロヒンギャがミャンマーに突きつけるもの』	

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 424
3. 書名 東アジアの新しい地域主義と市民社会 - ヘゲモニーと規範の批判的地域主義アプローチ	

1. 著者名 石戸光編、鈴木絢女	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 120
3. 書名 『グローバル関係学ブックレット 政治経済的地域統合：アジア太平洋地域の関係性を巡って』	

1. 著者名 村上勇介・帯谷知可編、未近浩太	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 288
3. 書名 『秩序の砂塵化を超えて：環太平洋パラダイムの可能性』	

1. 著者名 渡邊 啓貴 (著, 編集), 福田 耕治 (著, 編集), 首藤 もと子 (著, 編集), 蓮生 郁代, 和田 洋典, 大森 佐和, 山尾 大, 宮脇 昇, 坂井 一成, 牧野 久美子, 土屋 大洋, 宮坂 直史, 山本 武彦	4. 発行年 2018年
2. 出版社 法律文化社	5. 総ページ数 282
3. 書名 『グローバル・ガバナンス学II 主体・地域・新領域』	

1. 著者名 山本信人監修・編著、鈴木絢女	4. 発行年 2018年
2. 出版社 慶應義塾大学出版会	5. 総ページ数 344
3. 書名 『東南アジア地域研究入門3 政治』	

1. 著者名 Dittmer Lowell, Ngeow Chow Bing eds., SUZUKI, Ayame and Lee Poh Ping	4. 発行年 2017年
2. 出版社 World Scientific Press	5. 総ページ数 300
3. 書名 Southeast Asia And China: A Contest In Mutual Socialization	

1. 著者名 SUZUKI, Ayame and Lee Poh Ping	4. 発行年 2017年
2. 出版社 World Scientific Press	5. 総ページ数 321
3. 書名 Dittmer, Lowell and Peter Ngew Eds, Southeast Asia and China	

1. 著者名 山本信人、鈴木絢女、太田淳、大庭三枝、長津一史、高木佑輔、中西嘉宏、岡本正明、永井史男、鈴木早苗、本名純、五十嵐誠一、見市建、山田満、土佐弘之	4. 発行年 2017年
2. 出版社 慶應義塾出版会	5. 総ページ数 321
3. 書名 山本信人編『東南アジア地域研究入門3 政治』	

1. 著者名 長沢栄治、栗田禎子、板垣雄三、白杵陽、田浪亜央江、山岸智子、山尾大、黒木英充、宮田律、佐原徹哉、鈴木規夫他9人	4. 発行年 2016年
2. 出版社 大月書店	5. 総ページ数 259
3. 書名 中東と日本の針路 「安保法制」がもたらすもの	

1. 著者名 私市正年、浜中新吾、横田貴之、松尾昌樹、今井真土、岩坂将充、岩崎えり奈、金谷美紗、北沢義之、吉川卓郎、小林周、清水雅子、清水学、白谷望、末近浩太、鈴木啓之、高岡豊、辻上奈美江、松本弘、山尾大	4. 発行年 2017年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 344
3. 書名 中東・イスラーム研究概説：政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>新学術領域研究「グローバル関係学」総括班  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html</a>          新学術領域研究「グローバル関係学」総括班  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html</a>          新学術領域研究「グローバル関係学」オンライン・ペーパー  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/online_papers/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/online_papers/index.html</a>          新学術領域研究「グローバル関係学」若手研究者育成  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/junior_researchers/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/junior_researchers/index.html</a>          新学術領域研究「グローバル関係学」公募研究  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/applications/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/applications/index.html</a>          グローバル秩序の溶解と新しい危機を越えて 関係性中心の融合型人文社会科学の確立  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html</a>          千葉大学グローバル関係融合研究センター  <a href="http://www.chiba-u.ac.jp/crsgc/index.html">http://www.chiba-u.ac.jp/crsgc/index.html</a>          新学術領域研究「グローバル秩序の溶解と新しい危機を越えて 関係性中心の融合型人文社会科学の確立」  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松永 泰行 (Matsunaga Yasuyuki)  (20328678)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授  (12603)	
研究分担者	落合 雄彦 (Ochiai Takehiko)  (30296305)	龍谷大学・法学部・教授  (34316)	
研究分担者	石戸 光 (Ishido Hikari)  (40400808)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授  (12501)	



## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	五十嵐 誠一 (Igarashi Seiichi) (60350451)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授  (12501)	
研究分担者	末近 浩太 (Suechika Kota) (70434701)	立命館大学・国際関係学部・教授  (34315)	
研究分担者	山尾 大 (Yamao Dai) (80598706)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授  (17102)	
研究分担者	松尾 昌樹 (Matsuo Masaki) (10396616)	宇都宮大学・国際学部・准教授  (12201)	
研究分担者	後藤 絵美 (Goto Emi) (10633050)	東京大学・日本・アジアに関する教育研究ネットワーク・特任准教授  (12601)	
研究分担者	高垣 美智子 (Takagaki Michiko) (00206715)	千葉大学・国際教養学部・教授  (12501)	
研究分担者	鈴木 絢女 (Suzuki Ayame) (60610227)	同志社大学・法学部・准教授  (34310)	
研究分担者	帯谷 知可 (Obiya Chika) (30233612)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授  (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計11件

国際研究集会 Japan-Iraq Joint Symposium	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 マヒドン国際会議「資源と移動」International Conference on Resources and Human Mobility	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The IPSA 25th World Congress of Political Science- Brisbane	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The Fourth World Social Science Forum (WSSF)	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジウム “The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation?”	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 第一回若手研究者報告会（2017年度）	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 The Relevance of Area Studies for the Sciences and Public Policy	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 The 6th Iraqi Japanese International Conference	開催年 2016年～2016年
国際研究集会 The 7th Iraqi Japanese International Conference	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 IS後のイラク再建を目指して；教育と医療の現場から	開催年 2017年～2017年
国際研究集会 国際シンポジウム「戦後世界秩序を振り返る 2017年から」	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イラク	バグダード大学	ムスタンシリア大学		
タイ	マヒドン大学			
イラク	バグダード大学	ムスタンシリーヤ大学	イラキーヤ大学	
タイ	マヒドン大学	メコン機構		